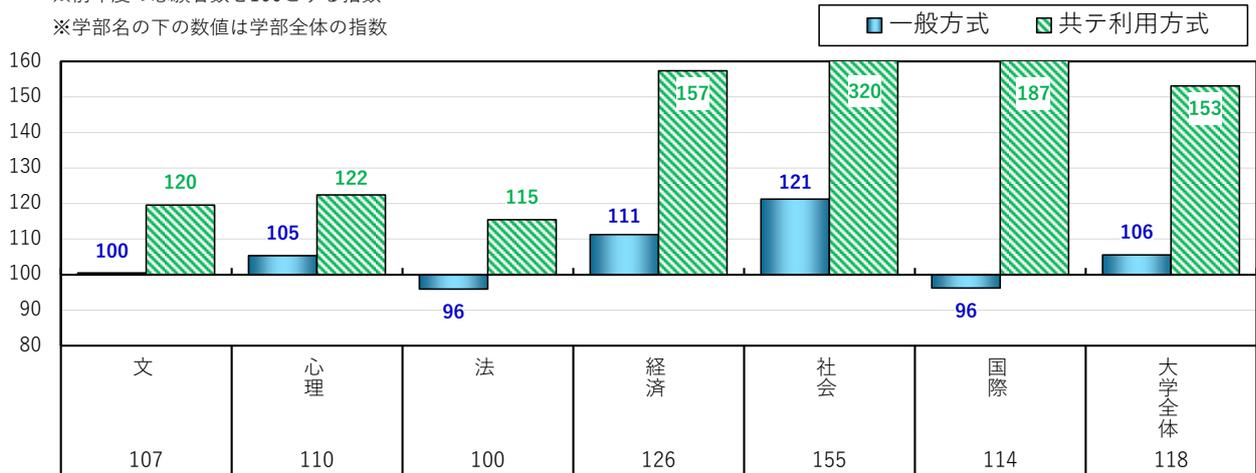


明治学院大：大学全体では5年ぶりに増加、特に共テ利用が大幅増加

一般：+797人 共テ：+2,777人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



## 主な入試変更点

選抜方法：心理(教育発達)<一般・A日程英語学部検定試験利用型(得点換算方式)>…新規実施  
 法(政治)、(消費情報環境法)<一般・A日程英語学部検定試験利用型>…利用方法：出願要件→得点換算 ※英語の受験は任意

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,574人(118)の大幅増加で5年ぶりに増加。学部別では、6学部全てが増加。特に、社会(155)、経済(126)はいずれも大幅増加、国際(114)、心理(110)はいずれも10%以上の増加。方式別では、一般方式は797人(106)のやや増加で5年ぶりの増加。共通テスト利用方式も2,777人(153)の大幅増加で5年ぶりの増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる<共テ・前期>(159)が大幅増加で5年ぶりの増加。一方で、共通テスト受験後に出願可能な<共テ・後期>(56)は大幅減少といずれも前年度と逆の増減。

## &lt;一般方式&gt;

- 文(100)**は、2年連続前年度並。学科別では、(英文)(109)は5年ぶりの増加だが志願者数は2年連続で1,000人を下回った。一方で、(フランス文)(89)は減少で前年度の反動による増減が継続。(芸術)(98)は微減。
- 心理(105)**は、2年連続やや増加で志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。学科別では、(教育発達)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。(心理)(99)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 法(96)**は、やや減少で志願者数は3年連続で3,000人を下回った。学科別では、(政治)(114)は3年連続減少の反動で増加、(消費情報環境法)(106)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、(グローバル法)(75)は前年度新規方式の実施もあって約2.5倍増だった反動で大幅減少、(法律)(89)は2年連続減少。
- 経済(111)**は、3年連続増加。学科別では、3学科全てが増加。(国際経営)(118)は4年連続減少の反動で大幅増加、(経営)(114)は前年度やや減少の反動で増加、(経済)(106)は前年度大幅増加に引続きやや増加。
- 社会(121)**は、大幅増加で2020年度より前年度の反動による大幅増減が継続。学科別では、(社会)(126)は前年度減少の反動で大幅増加、志願倍率も11.3倍→14.3倍にアップ。(社会福祉)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 国際(96)**は、2年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(国際キャリア)(82)は2年連続大幅減少、志願者数は何とか200人台を維持。(国際)(99)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。

## &lt;共通テスト利用方式&gt;

- 文(120)**は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(芸術)(162)は前年度減少の反動で激増、(英文)(134)は前年度半減近かった反動で大幅増加。一方で、(フランス文)(46)は前年度約2.2倍増の反動で半減以下、2017年度以降は極端な増減が継続。方式別では、<共テ・前期>(121)は大幅増加、<共テ・後期>(80)は大幅減少。
- 心理(122)**は、<共テ・前期>のみの募集だが、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(教育発達)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(心理)(121)も大幅増加で2年連続増加。
- 法(115)**は、<共テ・前期>のみの募集だが、大幅増加で3年ぶりに増加だが、志願者数は1,000に達しなかった。学科別では、(政治)(172)は前年度半減の反動で70%以上の激増。(法律)(171)も4年連続減少の反動で激増だが、2018年度対比では(58)の大幅減少。一方で、(消費情報環境法)(39)は激減で、2018年度以降は前年度の反動による極端な増減が継続。
- 経済(157)**は、大幅増加で志願者数は4年ぶりに2,500人を上回った。学科別では、(経済)(246)は前年度大幅減少の反動でほぼ2.5倍増、(経営)(115)は3年連続大幅増加。一方で、(国際経営)(95)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。方式別では、<共テ・前期>(171)は前年度減少の反動で激増、一方で、<共テ・後期>(53)は大幅減少。
- 社会(320)**は、前年度半減近かった反動で3.2倍増、2019年度以降は前年度の反動による極端な増減が継続。学科別では、(社会福祉)(488)は前年度半減以下だった反動で、(社会)(260)は前年度40%以上の大幅減少の反動で、いずれも激増。方式別では、<共テ・前期>(364)は前年度半減以下の反動で約3.6倍増、<共テ・後期>(46)は半減以下で3年ぶりに減少。
- 国際(187)**は<共テ・前期>のみの募集だが、激増で前年度の反動による増減が継続。